

とうふは、日・中・韓それぞれの国で自国文化として浸透している

日本、中国、韓国の3カ国間にはどのような相違があるのだろうか。前2回に引き続き、「とうふ」についての調査結果を報告する。今回は、「とうふと聞いて思い浮かべるもの」について報告する。

3カ国で共通して、「家庭的な感じ」と「健康な生活」が上位項目となった。各国ともに50%前後の人が、「とうふ」から家庭や健康をイメージするようだ。

各国の特徴についてみてみる。日本では、「日本文化」が68.8%の回答者を得て1位になった。同様に、中国では「中国文化」、韓国では「韓国文化」と、いずれも半数以上の人自国の文化と捉えられている。

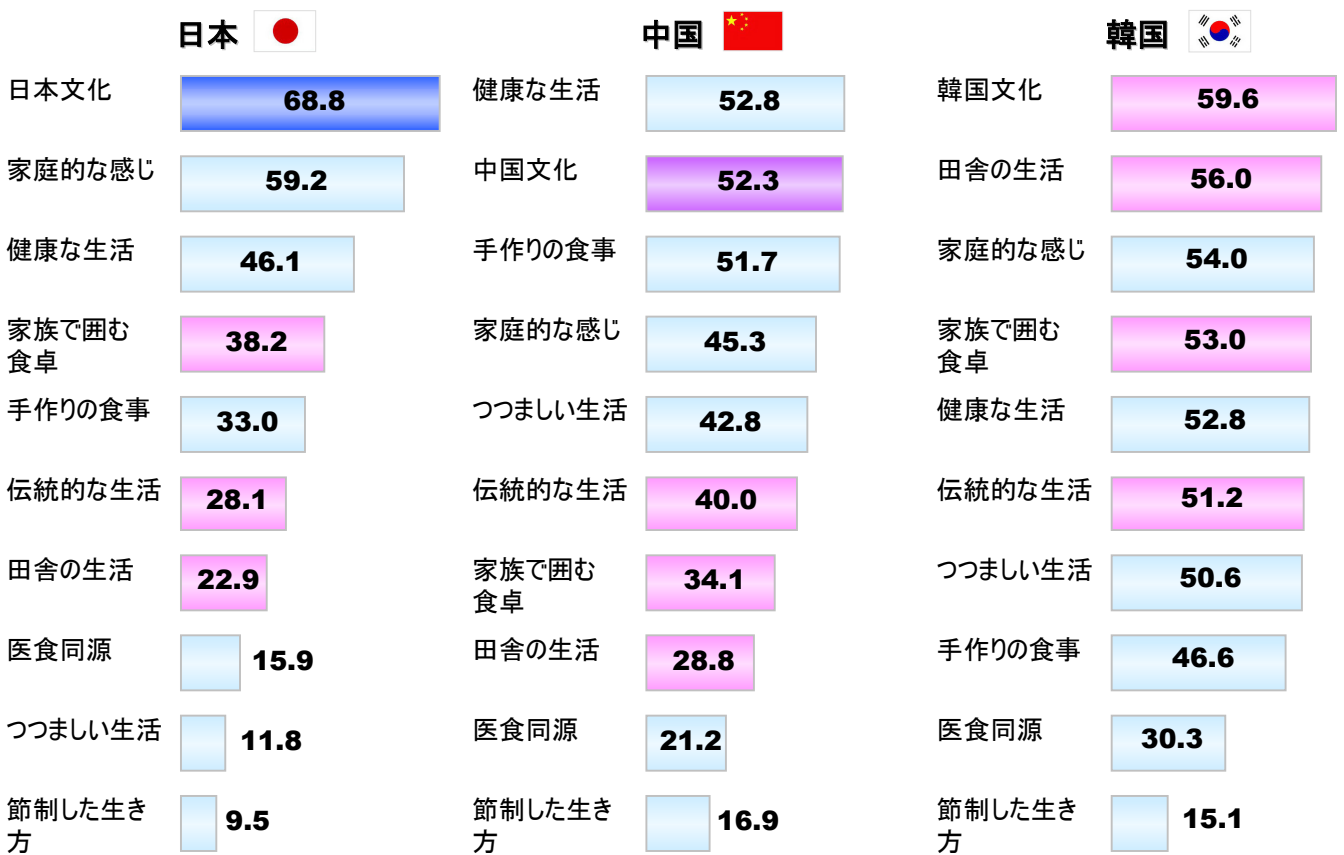
特に韓国では、「伝統的な生活」と回答した人の割合(51.2%)が日本と中国よりも10ポイント以上高く、伝統食材としての認識も高いようだ。

中国では、「健康的な生活」が、僅差で「中国文化」を抜いて1位となった。中国で「とうふ」は「養生食品」とよばれ、健康に生きて長寿につながる食べ物とされる。中国の権威ある薬物書である「本草綱目」にも、「養生食品」として記載されている。薬膳料理や精進料理に「とうふ」が使われることも多い。こうしたことから、中国では、多くの人「とうふ」から健康を想起するものと示唆される。

「とうふ」発祥の地は中国とされている。その起源は西暦紀元前2世紀頃で、日本へは奈良時代に伝来したといわれる。「とうふ」料理がそれぞれの国で発展し、自国の文化として浸透していったことがうかがえる。

とうふと聞いて思い浮かべるもの




\*上位10項目 (%)



Base for % : 1,072s

Base for % : 472s

Base for % : 498s

 : 日本特徴  : 中国特徴  : 韓国特徴  
ハッチング基準：他の2国より10ポイント以上の差がある場合

とうふ食経験者ベース Base for % : 2,042s